

# 六郷中だより

六郷中学校だより 第8号

令和 3年 8月 6日

発行・文責：校長 深澤裕治

<六中HP>



## 直感に頼らず、正しく恐れる！

「シュア！シュア！シュア！・・・」と、早朝からクマゼミの大合唱が響きわたり、夏本番を迎えています。クマゼミの鳴き声は、今では普通に家の周りで聞くことができますが、かつては静岡県が生息域の北限でしたので、山梨県では聞くことがなかったセミの鳴き声でした。20年ほど前に、静岡県に家族旅行に出かけた折に、聞き慣れないセミの声が気になり、初めて知ったのがクマゼミでした。どうやら地球温暖化の影響で生育域が北上していき、今では福島県でも分布が確認されているようです。

夏休みも折り返しの時期となりました。休み前の1学期の終業式には、生徒の皆さんに次のような話をしました。

「夏休みも、その先の2学期も、皆さんの未来です。これからのことですので、自分自身で作り出すこともできますし、新しいことに挑戦することもできる未来です。コツコツと時間をかけて継続して取り組むことができるチャンスとなるのも夏休みです。普段できないこと、時間をかけてやってみたいこと、挑戦してみたいことなど、チャレンジしてみてください。それが目標であり、計画だと思えます。ぜひ、よりよい夏休みとなるよう、先を見通してみてください。」

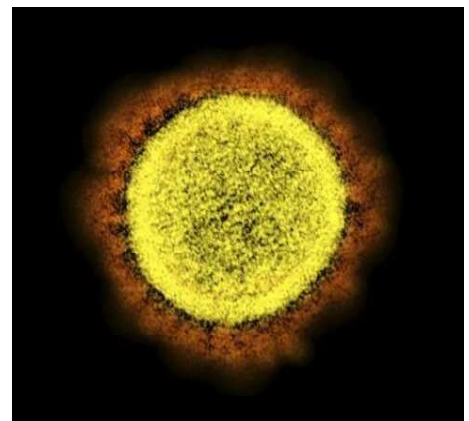
「さらに、もう一つ。何かを行ったり、判断するときのアドバイスをお伝えします。それは『直感に頼らない』こと、そして『正しく恐れる』こと。新型コロナへの感染はもちろんですが、外出先での誘惑や誘い、ネットを使う際のルールやマナー、エチケットなど、ぜひ、正しい選択ができるよう、『直感に頼らない』こと、『正しく恐れる』ことを心にとめて、夏休みを過ごしてください。そして、心も体も成長した皆さんとの2学期の再会を期待しています。」

1つ目の話は充実した夏休みとなるよう、「アクセル」としての話をしました。一方、2つ目の話は今日的な課題に対しての「ブレーキ」としての話でした。しかし、いよいよ『直感に頼らず、正しく恐れる』といった「ブレーキ」が、特別な場面での心構えではなく、身近な日常の生活においても、緊張感をもって判断しなければならない心構えとなってきました。

感染者が多く緊急事態宣言が出されている都府県のみならず、山梨県においても8月5日現在、一日の感染者数は過去最多の49人となり、直近の1週間の10万人あたりの感染者も33人を上回るなど爆発的感染拡大の水準のステージ4として、非常に深刻な状況であると報じられています。

『正しく恐れる』は、「天災は忘れた頃に来る」の言葉で知られる物理学者・地震学者の寺田寅彦（1878～1935年）が記した「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむづかしい」に基づくものです。新型コロナウイルス感染症へのリスクに対して、感情や感覚的な判断基準によらず、正しい情報と状況とを理解し、対応するために、今まさに寺田寅彦の戒めとしての『正しく恐れる』ことの重要さが求められていると思います。

2学期に向けて、生徒にとって心も体も成長する夏休みとなりますよう、『直感に頼らず、正しく恐れる』を行動の判断基準としていただけますよう、お願いいたします。



新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真